

連携

1年生の理科では、植物の花のつくり、3年生の理科は生物の生殖について学んでいます。1年生は、実物の美しい花々を観察できる時期に、花序の構造や、草花の種類、子孫の増やし方を学びます。3年生は一歩進んで、細胞レベルでの生殖や遺伝子について学び、掘り下げていきます。清瀬中の玄関前には“マツ”が緑色を濃くしています。マツの木の下を見るとマツボックリが落ちています。マツは裸子植物に分類され、胚珠が子房に包まれずむき出しになっています。写真に示す雄花の花粉が雌花のリン片に受粉すると種子ができるきっかけとなります。その花粉は誰が運ぶのでしょうか。派手な花が咲くなら、そこに近づく蝶や蜂たちが運ぶことがイメージできますが、マツの雄花も雌花も大変地味です。実は風が運んでいるのです。“風媒花”（『ふうばいか』と読む）といいます。雄花の花粉の放出と、風の連携によって雌花へとたどり着くのです。種子は羽のようなものがついて風



に乗りやすい構造になっています。これまた連携です。

来る、5月30日(土)運動会です。ワクワクしています。ですが、2週間 マツ ことになります。校庭ではバトンパスの練習。担当が「クラス全員の100mのタイムの合計と、リレーの総合タイム、どちらが

早いと思う？」と投げかけています。バトンパス次第で、総合タイムは、縮めることができる。走者間の連携が必要です。従来のパスが多勢を



占めておりましたが、アンダーハンドパスを練習するコンビもちらほらと。

アンタにパス と!2年生は、運動会に向けての出発式を行いました。実行委員が皆の前に立ち、「実行委員は既に盛り



り上がっている。実行委員の盛り上がりだけでは運動会を成功させられない。みんなも一緒に盛り上げてほしい！」と語っていました。そして、実行委員長の号令で円陣を組み、お叫びを上げ、心の エンジン をかけていました。ひとりひとりの小さな肩組が大きな輪を創り出しました。実行委員と仲間の連携が成功へのスタートキーです。



連携と言えば、清瀬市では小学校と中学校の連携に力を入れております。清瀬小には学習教室や運動会の時に本校生徒がお手伝いに伺っております。生徒ばかりではなく、教員も小さな連携を積み重ねています。13日は、清小のスポーツテスト・ソフトボール投げのデモンストレーションに小澤が登場。60 前の身体に鞭を打って遠投。ソフトボールを投げたのではありません。清瀬小のみんなに想いを投げたのです。



14日は、清瀬小にて都算数教育研究会の特別授業が開催されました。文科省の教科調査官の先生が、清瀬小の児童に授業をしました。本校からも教員が学びに伺いました。生徒の考えを主体的に引き出す授業に刺激を受けて帰って参りました。教員同士が高め合う。これも小さな連携です。

小さな連携の積み重ねが大きな成果を産み出します。マツと風の関係のように自然に連携できる訳ではありません。困難もあります。困難が多いほど成果をあげた時に喜びは膨れます。膨らんだ喜びに対し、大きく息を吐きながら感激するのです。

「フー、倍か!？」と。